

| | | | |
|--------------------------------|---|---------|--|
| 1. 科目名 (単位 数) | 保育内容 (健康) (2 単位) | 3. 科目番号 | SSOT2412 SCOT2412 SJMP1131 SJMP2131 JNNT1106 |
| 2. 授業担当教員 | 中村 裕 | | |
| 4. 授業形態 | 配布資料による質疑応答形式およびグループディスカッションを主とした授業を行う。 | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・ 他科目との関係 | 「子どもの保健」との関連性ももて、理解が深まる。 | | |
| 7. 講義概要 | 保育内容を構成する領域「健康」について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学ぶ。健康な生活および健康への関心について幼児に理解させる保育活動になるための支援の仕方、安全教育や積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における保育内容「健康」に関して総合的に指導や援助が行えるよう、具体的な実践例を通して健康の内容やその他領域を総合的な展開の仕方について修得する。 | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の発育・発達を理解し、認識や思考を学び、自ら考え、問題解決できる力を身につける指導を、保育活動で実践できるようにする。 2. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解、習得して実践的な保育活動ができるようにする。 3. 指導案の構成を理解出来、具体的な保育を想定した指導案を作成する。 4. 自ら作成した指導案の基、模擬保育を行い、保育を改善する視点を身につける。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題 | 子どもの健康に関する資料 (各テーマ: 発達、外遊び、健康増進、安全指導等) を配布し、保育者としての立場から自分の考えについて述べる (発表およびレポート) 発表後、またはレポート提出後、「課題」とし、グループごとにディスカッションをする。 | | |
| 10. 教科書・参考 書・教材 | 【教科書】 新保育ライブラリ『保育内容 健康』「新版」北大路書房 【参考書】 「幼稚園教育要領」(平成 29 年告示) 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成 30 年 3 月文部科学省 「保育所保育指針解説」平成 30 年 3 月厚生労働省編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成 30 年 3 月内閣府/文部科学省/厚生労働省 | | |
| 11. 成績評価の規 準と評定の方 法 | ○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. スモールテストや課題レポートを通じて乳幼児の健康や発達について理解出来たかを評価基準とする。 2. 外あそびの重要性をテーマに指導案を作成し、積極的なディスカッションを行い発表できたか。 3. レポートならびに期末試験に於いて、自分の意志や考え方を論理的に記述できたか。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート 30% 2. テーマ発表 20% 3. スモールテスト (毎時間) 20% 4. 期末試験 30% 計 100% 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認めない。 | | |
| 12. 受講生への メッセージ | 健康は生活、活動の基本である。幼児期に健康的な生活習慣を身につけることは、将来の幸福な生活に向けての基礎づくりともいえる。それにはまず、からだに対する興味や関心を持たせ、健康の意義を指導することが大切である。また、乳幼児期は自分のからだを管理することは不可能に近いため、保育者の指導・援助方法を学ぶことも不可欠である。本講義は子どもが健康な生活を送るために、必要なものは何か。何を身につけるべきか。を学ぶことはもとより、保育者にとっての健康にも着目し、自らの生活習慣も振り返り、保育者自身も健康であってほしいと願っている。 本講義は主にディスカッション形式で進める為、意見や考えを積極的に述べる授業参加を期待する。 | | |
| 13. オフィスアワー | 授業内で周知する | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第 1 回 | オリエンテーション (領域「健康」のめざすもの及びねらいと内容の解説) | 事前学習 | 領域「健康」の学習ノートを準備し講義に臨むこと 領域「健康」のねらいと内容を確認する |
| | | 事後学習 | 領域「健康」のねらいと内容をまとめる |
| 第 2 回 | 幼児の健康 (健康の定義、健康状態の把握) など WHO の健康の定義を踏まえた上で領域「健康」のねらいや捉え方を考察する | 事前学習 | 「幼児にとって健康とは何か」についてまとめる |
| | | 事後学習 | 「健康」の定義の意味を復習し幼児の健康について再度考えてみる |
| 第 3 回 | 幼児の発達理解 (乳幼児の形態面の発達) と生理機能の発達 | 事前学習 | 教科書から発育と発達の違いを理解し、生理機能についてまとめる |
| | | 事後学習 | 形態面の発育、生理機能の発達についてまとめる |
| 第 4 回 | 運動機能の発達 (運動の発達、運動能力の発達) と幼児の体格・運動能力の測定法 | 事前学習 | 運動の発達と運動能力の発達の違いについてまとめる |
| | | 事後学習 | 幼児の体格・運動能力の測定方法について学び、測定の重要性を再確認する |

| | | | |
|------|--|------|--|
| 第5回 | 幼児の遊びの発達と健康について（遊びの意義と遊びの発達過程が人間関係や社会性の発達との関連性が学童期に影響することを学ぶ） | 事前学習 | 自分の体験した遊びを洗い出し、幼児の遊びの重要性を活動の総合性と自発性との関連でまとめる |
| | | 事後学習 | 乳幼児にとっての遊びの重要性について再確認する |
| 第6回 | 幼児の遊びの発達と健康（発達過程における幼児の遊びの意味と変化がこれからの子どもの成長に与える影響について） | 事前学習 | 様々な運動遊びに含まれる多様なねらいを考える |
| | | 事後学習 | 身体的効果、社会的効果、精神的効果について再確認する |
| 第7回 | 幼児の体格・運動能力の現状と課題（新生児から幼児の体格の把握と体力・運動能力の低下についての問題を課題として教材になる文献を研究する） | 事前学習 | 幼児の体格や運動能力について調べ把握する |
| | | 事後学習 | 幼児の体力の低下、運動能力の低下についての原因と要因をまとめる |
| 第8回 | 幼児の生活スタイルの現状と問題点（運動習慣、睡眠、排泄、衣服の着脱、清潔、食育）1日の園の生活を踏まえて基本的な生活習慣を身につけさせるための学習指導案を作成し発表する | 事前学習 | 基本的な生活習慣の問題点を調べる |
| | | 事後学習 | 問題点について、どのような方法で改善できるかをまとめる |
| 第9回 | 幼児の測定の重要性（幼児期運動指針の資料をもとに身体活動と運動の意義について考察する） | 事前学習 | 測定法について調べる |
| | | 事後学習 | 乳幼児の測定の意義をまとめる |
| 第10回 | 幼児の安全管理と安全教育（必要性、事故・障害の発生状況）幼児の事故の原因と特徴最近起こりえた事故や事件のニュースを教材として研究する | 事前学習 | 安全管理と安全教育を調べる |
| | | 事後学習 | 幼児が事故に遭わないようにするためには保育者のどのような配慮が必要かをまとめる |
| 第11回 | 幼児がかかりやすい病気や感染症について（資料や文献からまとめ、現場での予防、対処、処置を考察する） | 事前学習 | 幼児のかかりやすい病気を調べる |
| | | 事後学習 | 感染経路、予防、罹患したときの対処法をまとめる |
| 第12回 | 園の生活で頻度が高いケガについて（ケガの知識を習得し、現場で必要な応急処置法を映像や実践で学ぶ） | 事前学習 | ケガの応急処置法を調べる |
| | | 事後学習 | 応急処置法で重要な点をまとめる |
| 第13回 | 重篤な応急処置として心肺蘇生法について大人と幼児のやり方の違いを把握する） | 事前学習 | 心肺蘇生法について調べる |
| | | 事後学習 | 心肺蘇生法のやり方をまとめる |
| 第14回 | 模擬保育① 3・4歳児の運動遊びの指導法の指導案を作成し模擬保育を行う また、現場において情報機器や教材の効果的な活用について考察する | 事前学習 | 3・4歳児の運動発達を理解して指導案を作成 |
| | | 事後学習 | 当日の反省と次への発展の仕方をまとめる |
| 第15回 | 模擬保育② 5歳児の運動遊び指導法の指導案を作成し模擬保育を行う また、現場において情報機器や教材の効果的な活用について考察する | 事前学習 | 5歳児の運動発達を理解して指導案を作成 |
| | | 事後学習 | 当日の反省と次への発展の仕方をまとめる |